

大学運営会議議事録	
開催日 及び場所	令和7年2月13日(木) 午後3時00分から午後3時35分まで 特別会議室 Web (ZOOM) 会議同時実施
出欠状況	出席:37名 欠席:3名
1 協議事項 (1)電子ジャーナルの転換契約に関する関心表明 2 報告事項 (1)令和6年度 学位記授与式 (2)THE 世界大学ランキング 2025 (世界版) の結果 3 その他 (1)大学内における生活環境	

- ・ 前回議事録(案)の確認

令和7年1月の大学運営会議議事録(案)について、案のとおり承認された。

1 協議事項

(1) 電子ジャーナルの転換契約に関する関心表明 (説明者：轟木附属図書館長)

電子ジャーナルの契約状況は、円安等による価格高騰の影響を受け、毎年の購読契約に苦慮しているが、今後の契約手法の一つとして、転換契約を取り入れることを検討している。

転換契約とは、従来までの学術雑誌に係る出版社との契約、購読であったものを、オープンアクセス掲載公開料（以下、「APC」という。）に転換させ、論文のオープンアクセス出版の拡大を目指す契約のことである。

本件の背景として、1つ目は、本来科研費等の公的資金によって生み出された論文、研究データは、国民に広く還元されるべきものである一方、大手出版社の購読制限、購読料の上昇により、広く国民に還元できていない実態があり、結果として大学や研究者等の費用負担も増大している。また、来年度の文部科学省所管の競争的研究費（科研費）に相当する学術論文、成果論文、根拠データに関しては、大学の機関リポジトリ等への即時掲載を義務づけており、大学として公的資金による学術論文等の即時オープンアクセス実施が求められている。

2つ目は、海外の学術出版社との交渉について、Elsevier、Wiley、Springer Natureなどの海外大手学術出版社に対し、内閣府及び文部科学省からの体制構築支援の下発足された大学主体の交渉団体 OASE（オーエイス：Open Access for Scholarly Empowerment）が発足した。

3つ目は、研究成果発信のための研究データ基盤システムの整備・充実に向け、本学で準備を進めているが、その他の国公私立大学においても今回の集団交渉に加わることが予想される。

以上、3点の要因により、来年度以降、本学において対応を進める必要がある。

令和7年1月22日付けで、OASE から転換契約に関する集団交渉に関心があるかの問い合

わせがあったため、大学としての方針を決定し、同年2月14日までに学長名で回答する。
なお、図書館情報委員会では臨時のメール会議により、本件「2026年以降の転換契約に関する関心表明書」に「関心がある」と回答することについて、14名中12名の委員から賛成があり、承認が得られている。

理由は2点あり、1点目は、交渉力向上とスケールメリットの活用ということで、OASEが内閣府・文部科学省の後押しがあり、集団交渉に加わることで単独交渉よりも有利な条件を引き出せる可能性が高いため。

2点目は、転換契約による購読料削減、APC低減が期待できるという点で、現時点で「関心がある」と回答し、多くの情報を得ることが本学にとって最適な選択であるため。

関心表明後は、関係する教職員に対し、契約状況に関する確認等の協力をお願いする。

関心表明は、あくまでも転換契約に対する関心を示すものであり、法的拘束力を有しておらず、本学が早期に転換契約をするものではない。

関心表明書については、Taylor&Francisは、本学で購読していないため、今回は除いた形での回答とし、Wiley、Springer Nature、Elsevier、ACS（アメリカ化学会）の4つは、集団交渉に関心があると回答する。

2 報告事項

(1) 令和6年度 学位記授与式（説明者：芹澤学生室長）

令和7年3月19日に、令和6年度静岡県立大学学部・短期大学部・大学院学位記授与式をグランシップ大ホール・海で開催する。

卒業生は、同年1月20日時点で890人の予定であり、式の関係者、次第は、記載のとおりである。

学位記授与式の立て看板は、昨年同様に会場のグランシップには設置せず、大学構内に設置する予定である。

全体の記念写真撮影は、学生室での検討において、学位記授与式終了後の会場における机・椅子の撤去、写真撮影用舞台セッティング、整列・撮影等を限られた時間・人員で対応することは難しく、その後のバスの運行予定や学生の昼食時間、午後からの各学部における活動にも影響が出ることが予想され、また、カメラマンの手配、写真の現像、学生への郵送など、予算面も考慮した結果、昨年度同様に行わないこととした。

<意見>

・昨年、国際関係学部の教員から全体の記念撮影について復活して欲しいとの要望があり、今回の説明の中では、特に時間配分が困難であるという点が1番大きな問題だと理解したが、以前は、厳しいタイムスケジュールの中でも対応されていた。また、ゼミ・研究室単位ではなく、学部・学科単位での集合写真を撮る機会はめったにないため、記念になるものは続けても良いのではないかと思った。（構成員）

<回答>

・時間だけでなく予算的な問題もあるため、総括して実施しない判断としたが、学部ごとで集合写真を撮影する事例もあると聞いている。（説明者）

<意見>

・昨年は、国際関係学部棟内に写真撮影用のスポットを設置いただいたが、今年も用意して

いただけるか。(構成員)

<回答>

・今年も設置する予定である。(説明者)

<意見>

・国際関係学部棟内ではなく、階段になっている外のモニュメント付近に設置するということだと思う。(議長)

・昨年は、国際関係学部棟内のキャンパスプラザにも同様に設置していただいたと思う。

(構成員)

<回答>

・今年も国際関係学部棟内とモニュメント付近、双方に設置予定である。(説明者)

(2) THE 世界大学ランキング 2025 (世界版) の結果 (説明者: 賀川理事兼副学長)

世界大学ランキング最大手の THE による世界大学ランキング 2025 (世界版) が、令和 6 年 10 月 9 日に発表されたため、概要について報告する。

世界で 2,860 大学がエントリーし、2092 大学、全体の約 73% の大学がランクインした。本学は、1501+ にランクインし、日本からランクインした 119 大学の中では、63 位タイ (昨年 75 位タイ)、昨年から 12 位ランクアップという結果であった。なお、本ランキングは、2021 年度のデータに基づいたランキングである。

本ランキングの仕組みについて、前回 2024 年版からランキング指標が改正され、過去の 5 分野のうち、「研究」が「研究環境」、「被引用論文」が「研究の質」にそれぞれ変更された。

今年度の結果は、「教育」及び「産業界」について若干ポイントが低下したが、「研究環境」、「研究の質」及び「国際性」については、ポイントが上昇した。「研究の質」分野における評価では、THE が Elsevier のデータベース「SCOPUS (スコーパス)」を使用し、被引用論文数を独自に算出しており、算出方法など不明な点が多い。また、「教育」、「研究環境」分野は、レピュテーション (評判・風評) が大きいポイントを占めている。「国際性」は、現時点では派遣留学生の割合についてポイントが加味されていないが、今後は加味されることが予想される。

<意見>

・エントリーした大学の中の約 73% がランクインしたということだが、これは何かの基準をクリアしてランクインしたということで、その基準は公表されているか。基準が公表されていれば、例えば、大学の立ち位置や基準の達成項目として、受験生に示すことができると考えた。(構成員)

<回答>

・情報として持ち合わせておらず、分からない。(説明者)

<意見>

・基準について発表しているかどうかという点で、発表していない場合は、発表するべきであるという要請をしても良いのではないかと思う。(構成員)

<回答>

・本件は自主的に参加しているものであり、評価内容に不満があり、嫌になれば参加しなく

ても良いものであることから、基準の公表を要請することは難しい。一方、ランクインされている点では、世界的な大学として認知されるため、十分に意義があると思う。(議長)

<意見>

・これまでもそのような説明がされていたが、実態が何なのか分からないため、調べる必要があるのではないかと思う。(構成員)

<回答>

・大学側から確認をとっても聞いてもらえない状況であると思うが、発言やアクションを起こすことに意味はあると思うため、是非発言いただきたい。(議長)

3 その他

(1) 大学内における生活環境 (説明者：竹下経営情報イノベーション研究科長)

本研究科の修士論文発表会後、本学のレビューとして学生に意見を伺ったところ、大きな問題としてエアコンの問題が上げられた。

エアコンの稼働について、現状は日付を指定して作動しているという点について、多くの学生から酷な環境であったとの意見が確認された。特に夜間はエアコンが停止し、窓は網戸がなく、虫が室内に入ってしまうため、開けることができず、蒸し風呂状態で活動をしなければならぬという話もあった。

教員においても直接の因果関係は不明だが、救急搬送された例がある。

近年は天候が不安定な状況であるため、日付指定によるエアコンの作動は撤廃し、温度などの環境を基準とした作動とすることの検討をお願いする。また、温度設定は一般的に 28 度とされているが、実際に 28 度で仕事や勉強ができるかという点、できないと考えており、学生の集中力かつ健康面でも大きな弊害を起こす可能性があるため、今年の夏前までに規定内容の改正等をお願いする。

<回答>

・そのような要望を受け、施設室が今年度から新たな基準を設定した。具体的には、冷房について、最高気温が 28 度を超えると見込まれる日は朝から運転を開始する。また、不快指数が 80 を超えると見込まれる日についても冷房をつけるなど、実際の日付指定による稼働日より前から作動させるなど、弾力的な運用を今年度から実施している。設定温度についても、何度設定としているか分からないが、同様に弾力的な運転としている。

(向後経営財務室長)

<意見>

・28 度とする根拠はなく、一部では、ビル管理法の定める室温の範囲が 17 度から 28 度ということで、その上限を目標値に採用しているという話もあるが、実際に学習や研究などの活動をするには不適切な温度であるため、28 度という数値設定については、撤廃又は快適に学習や研究などの活動ができる温度に変更していただきたい。28 度では、適切な活動が不可能となる可能性が高いと感じており、学生や教員からも同じ意見が出ているため、28 度という枠に縛られないよう、再考いただきたい。(説明者)

<回答>

・今年度からは、実際に 28 度まで気温は上がらないが、湿度が高く、活動へ支障をきたす

可能性があることを考慮し、不快指数 80 を超えると見込まれる日という新たな基準を設けたため、現在は、当該温度にとらわれていない。(向後経営財務室長)

- ・現在の基準温度は、28 度ではなく 27 度で運用しており、天気予報による気温ではなく、実際の室温が 27 度を超える日とし、きめ細かく対応しているため、引き続き、御理解と御協力をいただきたい。(構成員)

<意見>

- ・実際には各学部棟、教室等でムラがあるため、どこの部屋が実際に熱いと感じるか教えていただきたい。(議長)

<回答>

- ・空気が淀むのは大教室及び中教室が多いと感じるが、個人差もあると考えており、学生によっても、大丈夫であるという学生と、過酷であるという学生がいる。しかし、全体として夜間などの窓を開けられない蒸し風呂状態での環境は非常に危険な状態だと思う。また、教員等においても、苦しい局面の中で講義を実施することで、思考能力が低下するという悪循環にも陥る可能性もあると思う。(説明者)

- ・部屋の大小ではなく、冷暖気が通る道筋があり、どこに位置しているかにより温度も変化するため、どこが暑い、どこが寒いなどの詳細な情報が得られれば、多少は環境を変えることができるかもしれない。

また、実際の問題として冷暖房機の寿命に達しているため、機器そのものを変えないとならないが、予算上すぐには対応できないため、今後の対応を検討していきたい。(議長)

<意見>

- ・1 番優先すべきは学生の健康であり、夏の間は熱中症が危険である。各教職員が、学生の健康に対して尽力しているにも関わらず、根本的な環境面に問題があつては、元も子もないと思う。金銭的な問題もあると思うが、快適以前に、安全な環境を提供できないことは、非常に危険なことだと思うため、最優先課題としていただきたい。(説明者)

<回答>

- ・重々感じている。意見をいただき感謝申し上げる。(議長)

担当：経営財務室 市野 雄基